

令和2年度 学校評価報告書

丹波篠山市立西紀小学校

校長 畑中さとる

1 学校教育目標等

未来を切り拓き、夢をかなえる力の育成 ～地域とともに ころ豊かに たくましく～
めざす児童像 にこにこ笑顔で あいさつができる子に
しっかり考え 主体的に 進んで学ぶ子に
きたえよう 心も体もしなやかで 強い子に

2 今年度の重点目標

- 1 【学び続ける自分づくり】
学校と家庭が学びの両輪になる・主体的・対話的な学びの西紀授業スタイル
- 2 【ふるさとに学びつなぐ自分づくり】
キャリア形成を図る「ふるさと学習」へ（系統性・持続可能・あこがれを持つ）
- 3 【たくましい自分づくり】
協働場面での思考と対話による「危険予測・回避・課題解決能力」の育成

3 学校自己評価結果

（達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する）

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
教育課程 学習指導	学力向上	B	臨時休業での遅れを、関連する内容や系統性のある単元でまとめる指導計画を練り直すことにより基礎基本定着に努め、焦点化した授業を行った。
	外国語科・道徳科・プログラミング学習の充実	A	新指導要領完全実施の中、児童・教師の課題をもとに3つのテーマで授業づくり実践研究を進め、理論研修・授業実践研究を着実に進めた。
	授業と家庭での学習をつなぐ「自分学習」	B	発達段階に応じた家庭学習の研究から、授業中における一人学びや学び合い伝え合いをもとに、明日の授業につなぐ予習や自主学習を進めた。
生徒指導	いじめを許さない学校 不登校の改善	B	いじめ防止基本方針の共通理解と組織的な早期発見早期対応を行った。臨時休校明けの登校しぶり数名は改善できた。さらに解決力を育てたい。
	基本的な生活習慣の確立	A	キャリア形成を意識しながら児童会の主体的な学校生活改善を進め、あいさつや感染防止等を図る集会活動が提案され、5分前行動も定着してきた。
	多様性を認め合う学校	B	ユニバーサルデザインに小中連携で取り組み、外部機関との連携を軸に合理的配慮の積極的推進や個性の伸長に努めた。さらに浸透させたい。
安全管理 健康管理	安全指導、事故防止	B	遊んでいい場所や体育の前の効果的な準備運動等危険予測に基づく取組に努め、スポーツ振興センターにかかるけがは4件と減少した。
	登下校の安全	A	コロナ対策で見守りは減ったが、月1回の全校終会後の地区会議、「地域防災家庭学習」で保護者と通学路の危険箇所確認等に取り組んだ。
	職員の健康管理、業務改善	A	定時退勤励行の呼びかけと共に、月1回の学校労働安全衛生委員会で働き方改革につながる具体的な業務改善を図り、退勤時刻は大幅に早くなった。
保護者地域 との連携	地域とともにある学校	C	コロナ禍での体験活動中止により生じた課題は慣例化しつつあるふるさと学習の課題でもある。学校・地域・保護者が連携する場を共に考えたい。
	丹波篠山の教育推進	A	「ふるさと西紀・丹波篠山」を学ぶ学習活動を、コロナ禍であっても地域との協議やICTの活用等から、新たに展開することができた。
	情報の発信	B	昨年同様HP、学校だより(月1回)、コミスクだより(学期1回)全戸配布等により教育活動を知らせたが、オープンスクール等の開放や交流ができなかった。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

- ・コロナ禍で通常の授業ではできない家庭学習や親子のふれあい等、親子・学校共に不安な毎日であった反面、よい気づきがあった。色々な行事も工夫してされたことにつながったと思う。
- ・児童、教職員、保護者が地域に関心をもてる目標設定であり、またその目標が明確であり、地域への情報発信も良く出来ていた。
- ・ドラえもんの引き出しやポケットのように、個性豊かで創造力がある子どもが飛び出してくるような期待感があり、楽しみ。
- ・学校評価とは別に子ども達への「夢調査」が2年継続で行われ、その回答に進化が見られたのは素晴らしい。具体的な目標や行動に向かってがんばってほしいと思う。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・主催事業や総合的な学習など、学校が地域の方々に支えられている。学校評価の項目もほとんどが高評価であり、成果が現れていると思う。
- ・コロナ禍でも、児童みんなで遊んでいる（児童集会活動等）のが、ほほえましいと思った。
- ・コロナ禍で、勉強以外にも恒例行事ができない中、児童が自分で考え、実行し、仲間意識を高める活動をしている。いじめのない明るい子ども達であってほしい。
- ・児童が減少し複式学級になることを見すえて、運動会の開催時期や時間帯、地域の方の参加などの課題を学校・地域で考えていきたい。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ姿勢は、思考力・創造力向上の教育にとってとても重要である。 ・コロナ禍でも家庭学習はできた。低学年には自ら進んで…は難しかったかもしれないが、コツコツできる貴重な時間になっていた。 ・低学年と高学年とは自己評価の中身が異なると思うが、良く出来たという達成感はやかった。 ・家庭での学習を学校での学習と両輪にして考える時、親の考え方や姿勢及び環境は子どもの学力にも大きく影響してくる。家庭で子どもと学習の仕方や過ごし方を話し合ってもらわなければならない。 ・来期に提案された「ふるさとキャリア教育」に期待しており、積極的に取り組んでほしい。（里づくり振興会でも検討する予定）
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の中に、児童が楽しく学校に来られているとあり、コロナ禍で制限された学校生活であっても楽しく過ごせているのが総てだと思う。 ・人権意識が育っていると学校評価で答えている所に、それぞれの子どもの学校での居場所があり、思いやりや相手意識が育っていることが現れている。 ・学年により、授業態度や児童間の雰囲気異なることが少し気になる。 ・ふるさと教育事業の内容をさらに深みがあり、充実したものと思う。
安全管理 健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策で早くから窓を開けて換気したり、寒い日に融雪剤をまいたり、安全の確認や配慮がありがたい。学校関係者や保護者が感染症対策に深い関心と危機感を持ち、児童に指導・教育を進めた。しかし、長期的な対応が求められることから、児童の戸惑い等も大切に考えてほしい。 ・地域防災家庭学習では、「避難シート」に記入、ハザードマップで警戒区域を親子で一緒に話し合い、確認できたことがよかった。 ・総合運動遊具が老朽化で撤去され、けがも減ったのはよかった。子どもの運動能力や遊びのためにも、新しい遊具の設置を予算化し設置してほしい。
保護者地域 との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で地域との学校行事が自粛や縮小せざるを得なかったことが残念。地域の方々に学校運営や行事に関心を持っていただくよう、改善したい。 ・学校の教育方針や様子が保護者によく発信されている。 ・地域の関わりが子ども達の夢を後押しできることについては、光栄なことと思う。地域の方々が学校に来やすい方策を考えたい。

